

痛くないお産。
提供します

赤ちゃんとの素敵な出会いのために・・・

麻酔専門医・指導医
ペインクリニック専門医

荒木ひろみ

お産の痛みのしくみ

- ❖ 子宮が収縮する痛みや産道が開かれるための痛み刺激は、痛みを伝える神経をつたわって脊髄に届きます。
- ❖ 痛み刺激が脊髄を上って脳まで届くと、人は「痛い」と感じます。
- ❖ その経路をブロックすることで、痛みを和らげることができます。

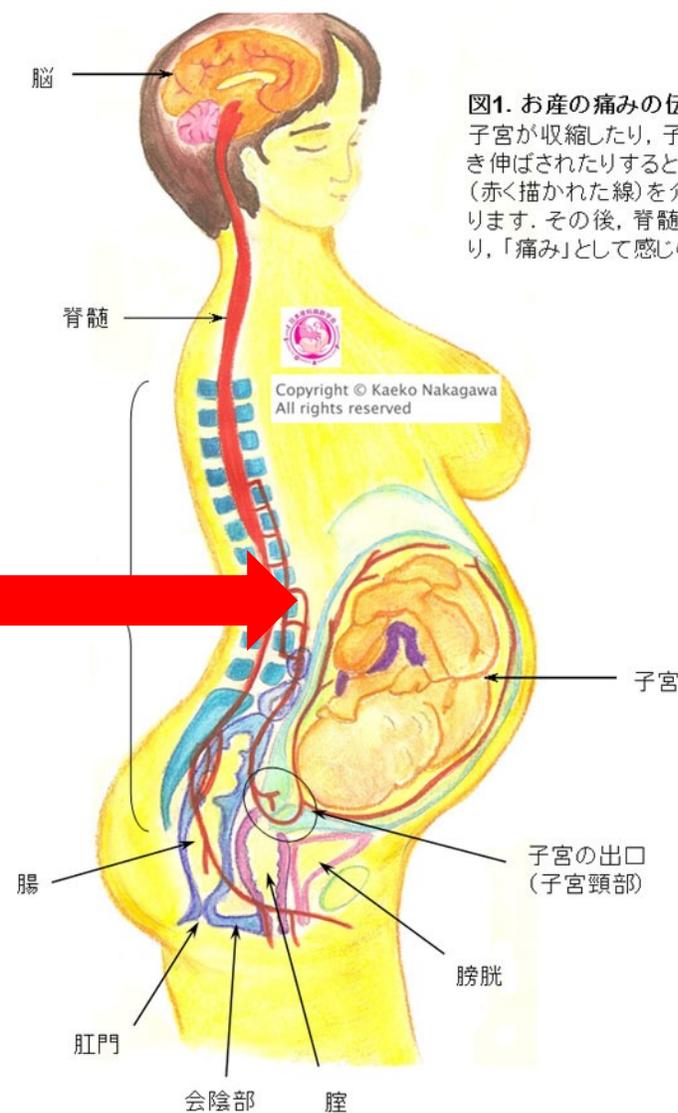
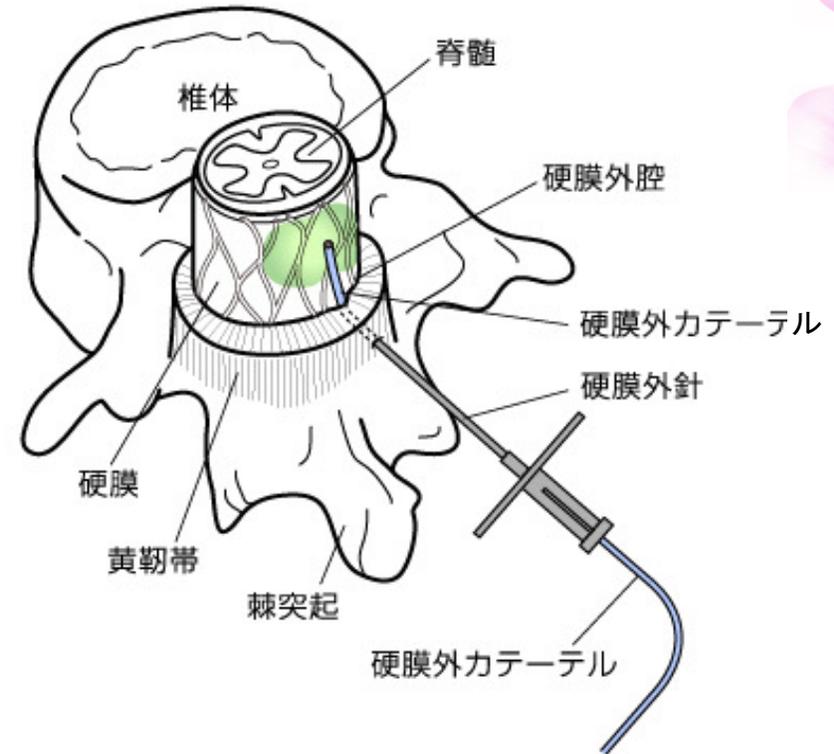


図1. お産の痛みの伝わり方
子宮が収縮したり、子宮出口や膣が引き伸ばされたりすると、その刺激は神経(赤く描かれた線)を介して脊髄に伝わります。その後、脊髄を上って脳にいたり、「痛み」として感じられます。

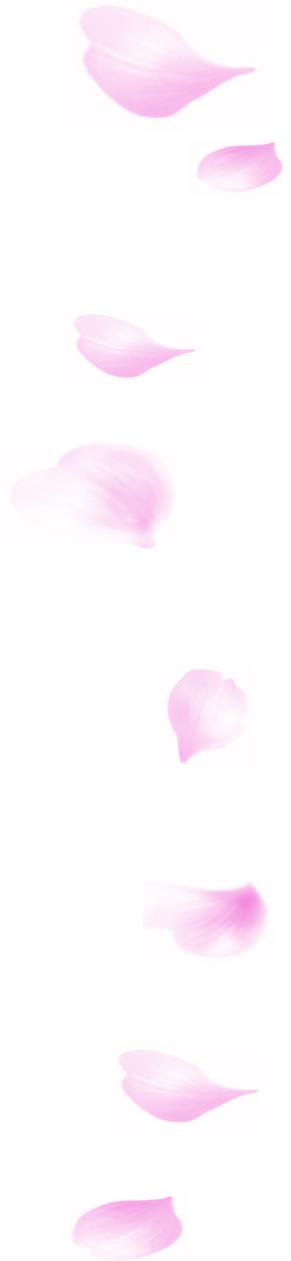
硬膜外無痛分娩法

- ❖ 脊髄は硬い膜（硬膜）につつまれています。
- ❖ 硬膜の外の空間（硬膜外腔）に麻酔薬を注入し、痛みの伝達をブロックする方法を「硬膜外麻酔」といいます。
- ❖ 「硬膜外麻酔」と使った無痛分娩が「硬膜外無痛分娩法」です。



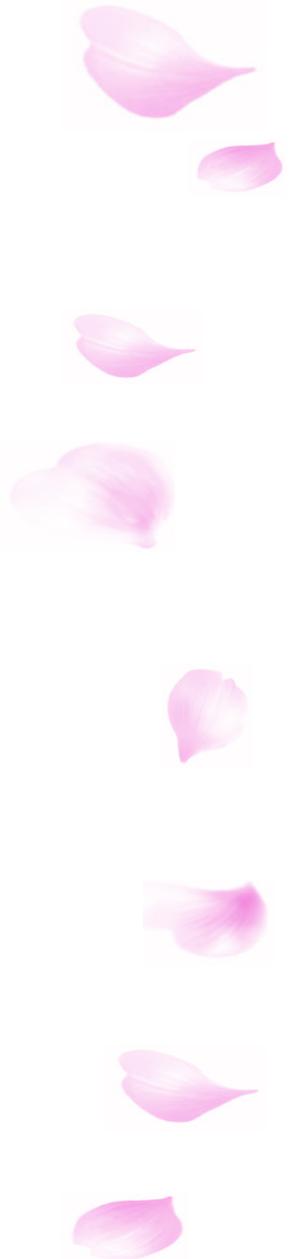
硬膜外カテーテル留置①

- ①台の上で横向きになっていただき、背中を丸くします。
- ②背中中の消毒をします。
- ③まず細い針で局所麻酔薬の注射をします。



硬膜外カテーテル留置②

- ④カテーテルを通すための針を挿入します。
- ⑤針を通してカテーテルを入れます。
- ⑥少量の麻酔薬を注入し、安全な場所にあるか確認します。



麻酔薬をいれるポンプ



- 痛みが出てきたときにボタンを押すと、決まった量だけ薬剤が注入されます。
- 大量に投与しないように、安全装置がついています。



- 助産師と相談しながら、痛みを調節していきます。
- 個人の痛みの感じ方やニーズにあった、お産を提供します。
- 薬剤に使用が最小限になるので、副作用をおこしにくいです。

無痛分娩のメリットは？

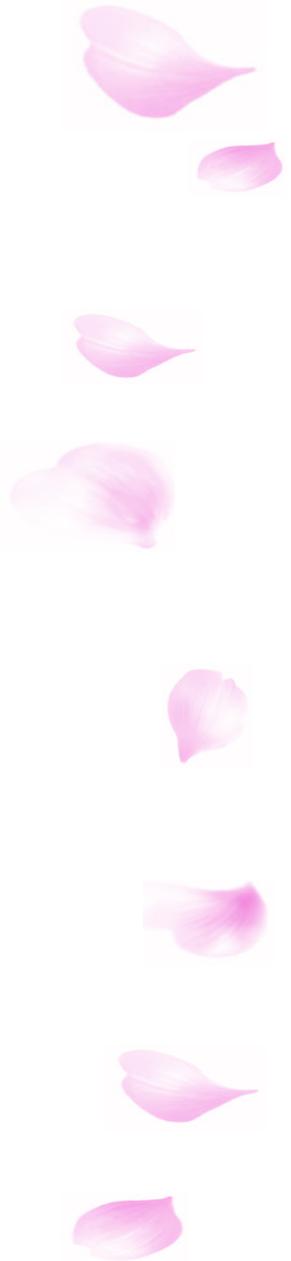
- ❖お母さんの意識がはっきりしています。
- ❖お母さんのストレスが軽減されます。
- ❖出産後のための体力が温存されます。



無痛分娩は時間がかかるの？

海外の研究にて・・・

- ❖ 分娩第1期（陣痛10分間隔～子宮口全開）
→変わらない
- ❖ 分娩第2期（子宮口全開～赤ちゃん娩出）
→初産婦で14分延長
経産婦は変わらない



吸引鉗子分娩・帝王切開になりやすい？

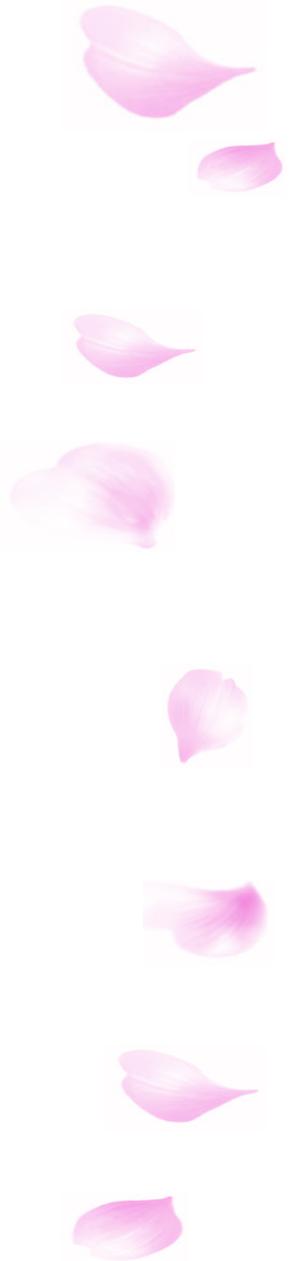
海外の研究にて・・・

❖ 吸引分娩・鉗子分娩

→ 頻度が高かった

❖ 帝王切開

→ 変わらなかった



赤ちゃんへの影響は？

- ❖ これまで無痛分娩によって子供の異常を認めたという報告はありません。
- ❖ 臍帯血の血中濃度は母体の血中濃度の半分以下で、時間が延びても増加する傾向はなかったと海外の研究で報告されています（海外の研究より）。
- ❖ 赤ちゃんに移行しても安全な薬剤を使用しています。
- ❖ 麻酔により子宮の血流が増加するため、赤ちゃんへの血流も増え酸素が多くとりいれられるので、むしろ良い影響があると考えられています。



麻酔はちゃんと効くの？

- ❖ 麻酔の効果不足「まだ痛い」「お尻が痛い」
- ❖ 麻酔の片効き「左だけ痛い」



体位変換

カテーテルの位置調整

医師による麻酔薬追加

カテーテル入れ替え

脊髄くも膜下麻酔追加

(硬膜の内側に少量の麻酔薬を追加)



麻酔中おこりうることは？

- ❖ 血圧低下→輸液・お薬で対処します。
- ❖ 足に力が入りにくくなったりしびれたりすることがあります。
 - 麻酔投与後、数時間で治っていきます。
 - トイシ歩行できないので導尿させていただきます。
- ❖ お薬でかゆみができることがあります。
 - 薬を変更します。
- ❖ 体温上昇→自然に低下していきます。
- ❖ カテーテルを入れるとき、神経に触れると足がびりっとすることがあります。
 - 一時的なもので軽快していきます。



麻酔のリスクは？

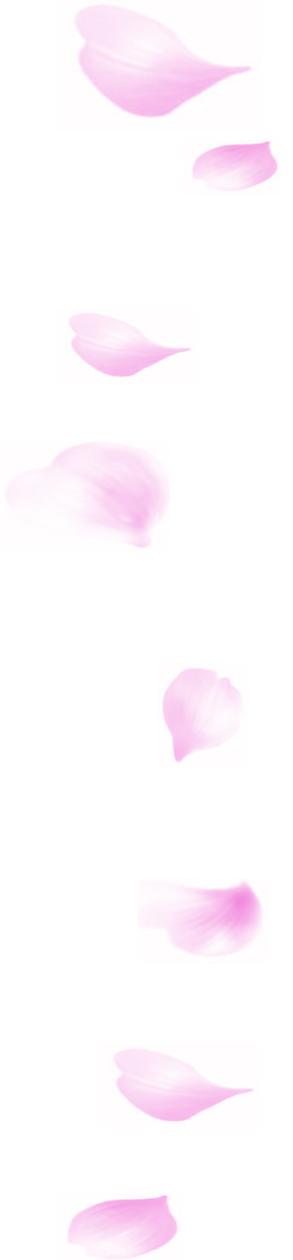
❖ 呼吸抑制・意識障害：麻酔薬が硬膜の内側に入ってしまうと
おこります。

→適切な処置により回復しますが、重大な合併症をおこす
可能性もあります。

当院では麻酔科医の危機管理のもと、即座に適切な処置を
取れる体制を整えております。

❖ 頭痛：カテーテルを入れるための針が硬膜を傷つけると
おこることがあります。

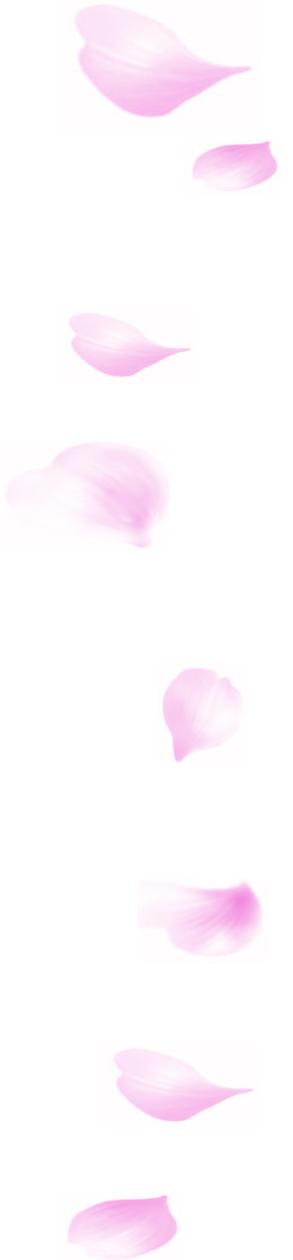
→安静・水分補給・薬剤使用にて数日で軽快していきます。



当院では

- ❖ 胎児の心拍と子宮収縮をモニター管理を徹底します。
- ❖ 麻酔中は母体の状態のモニター管理を徹底します。
- ❖ 助産師がこまめに母子の状態をチェックします。
- ❖ 麻酔・ペインクリニック専門医が監修した管理方法で行います。
- ❖ 院長が麻酔標榜医であり、緊急時は即座に対応します。

安全第一の無痛分娩！



ご希望の方は

- ❖ お早めに医師・担当看護師にお伝えください。
- ❖ 他院通院の方は、32週までにこちらでの通院としてください。
- ❖ 事前に麻酔科医との面談があります。
- ❖ わからないことや不安なことなどありましたら産婦人科医あるいは麻酔科医にお尋ねください。

